

様

年 月 日

アリムタ+カルボプラチン併用療法

この治療では次の2種類の薬を使用します。

ペメトレキセド（アリムタ注）：細胞の分裂を抑えて病気の細胞が増えるのを抑えます。

カルボプラチン（パラプラチン注）：細胞のDNAに作用し効果を現します。

<投与スケジュール> . . . 3週間 1コース 今回 コース目

<薬品名> <投与方法・時間>	<薬の作用>	1コース目		2コース目
		1日目	22日目
デキサト注・グラネトロン注 <点滴静注 30分>	アレルギー・嘔気の予防	/	休業	/
アリムタ 生食100ml <点滴静注 10分>	化学療法剤		休業	
カルボプラチン 生食500ml <点滴静注 120分>	化学療法剤		休業	

<薬剤投与日の注意>

- ★ 点滴部位が痛くなったり、腫れたりした場合や点滴が落ちなくなった場合は、薬液が血管外へ漏れていることがありますので、すぐに申し出てください。
- ★ 薬剤による治療は、血液検査など必要な検査を行い、治療効果、副作用を確認しながら進めていきます。副作用の発現・合併症の有無によって、治療の途中でも薬剤の減量・変更や中止されることがあります。

<備考>

<副作用>

副作用と症状	頻度	対策	備考
白血球減少 発熱 風邪様症状	重度約25% (1000以下の好中球減少約50%)	うがいや手洗い・休養を心がけてください。白血球を増やす薬や抗生物質を使うこともあります。	
血小板減少 出血	頻度は低い	けがや打ち身、歯ぐきからの出血、鼻血などに気をつけて下さい。止血剤を使ったり、輸血をすることもあります。	
貧血 倦怠感、息切れ めまいなど	頻度は低い	採血結果によっては、造血剤の使用や輸血を行います。	
吐き気・嘔吐	重度約2%	我慢をせず吐き気止めを使用してください。	
口内炎	—	うがい薬や口内炎用塗り薬を使用してください。	
過敏症（アレルギー） 顔がほてる、息苦しい、 胸が苦しい 発疹、かゆみなど	—	予防薬を使用しますが症状があればすぐに申し出てください。	
その他：間質性肺炎、肝障害、発熱、脱毛、下痢、便秘、神経障害、ドライアイなど			

▶ カルボプラチン等の白金製剤で起こる過敏症は数コース治療後に起こすことがあります。

ここにあげた副作用は、代表的なものです。万一副作用が現れても、早期に発見、対処すれば、治療の継続が可能です。過剰に心配せず、気になること、調子の悪いことがあれば、医師・薬剤師・看護師に申しでてください。

